

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月6日

上場会社名 フジ日本精糖株式会社
 コード番号 2114 URL <http://www.fnsugar.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江口 達夫
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部本部長 (氏名) 福田 弘
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月10日

上場取引所 東

TEL 03-3667-7811

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	12,345	—	876	—	963	—	379	—
20年3月期第3四半期	10,079	1.1	960	23.7	1,093	21.3	764	41.2

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第3四半期	13.88	—	—	—
20年3月期第3四半期	27.93	—	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
21年3月期第3四半期	18,994	59.3	11,332	59.3	—	—	411.76	—
20年3月期	15,020	75.3	11,306	75.3	—	—	414.41	—

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 11,266百万円 20年3月期 11,306百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円	円	円	円	円
20年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	8.00 ～10.00	8.00 ～10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	17,000	30.4	950	△12.1	1,050	△18.8	650	△20.9	23.78

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
 新規 1社(社名 ユニテックフーズ株式会社) 除外 1社(社名)
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 29,748,200株 20年3月期 29,748,200株
 ② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 2,387,334株 20年3月期 2,465,387株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 27,333,525株 20年3月期第3四半期 27,385,518株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。
2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、世界的な金融危機の深刻化が实体经济に波及し、景気が急激に減速いたしました。この影響で、個人消費の低迷、株式相場の下落、設備投資の減少など、企業を取り巻く環境は大変厳しくなり、業績の悪化が顕著となりました。

このような環境下、当社グループは、「食の安全」の要請が高まる中、引き続き食品会社として相応しい工場環境創りに努力し、安心・安全な製品の安定供給を最重要課題として取り組んでまいりました。また、平成20年5月株式取得により子会社となりましたユニテックフーズ株式会社とのシナジー効果を高め、機能性素材分野での事業展開を拡大し加速すべく、アプリケーション開発等に鋭意取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高12,345百万円、営業利益876百万円、経常利益963百万円となりました。また、特別損失として投資有価証券評価損366百万円など総額395百万円を計上した結果、四半期純利益は379百万円となりました。

事業の種類別セグメントの状況は以下のとおりであります。

(1) 精糖事業

精糖事業につきましては、实体经济の減速等により砂糖の消費が落ち込み、販売数量は前年同期を若干下回りました。一方、エネルギーコストや海外原糖相場の上昇を一部販売価格に転嫁した結果、売上高は9,385百万円、営業利益704百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間の海外原糖相場の推移は以下のとおりであります。

ニューヨーク市場現物相場 (USセント/ポンド当たり)

期初	高値	安値	期末
13.30	16.13	11.54	12.75

当第3四半期連結累計期間の国内製品市況の推移は以下のとおりであります。

東京市場現物相場 (上白大袋1kg当たり)

期初	期末
154～155円	166～167円

(2) 機能性素材事業

機能性素材事業につきましては、機能性食品部門は引き続き、脂肪代替機能を中心としたイヌリンの用途開発、認知度向上および副産物の売価アップに努めました。また、同部門の仕入商品に関しては、扱い商品の選択と集中を行い取引内容の改善を行いました。食品添加物部門は受託業務は順調に推移しましたが、自社開発商品は、計画に達することはできませんでした。切花活力剤部門は家庭用製品および流通向け新製品の販路開拓に努力を傾けましたが、諸物価高騰による消費者の節約志向が強まる中、切花の消費環境は非常に厳しい状況で推移しました。

なお、第2四半期連結会計期間よりユニテックフーズ株式会社の業績が加わった結果、売上高は2,405百万円、営業損失106百万円となりました。

(3) 不動産事業

不動産事業につきましては、既存物件の賃貸は順調に推移しました。また、清水原糖倉庫跡地の賃貸開始や販売用不動産の顧客への引渡しを開始した結果、売上高は555百万円、営業利益434百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1)資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ26.5%増加し18,994百万円となりました。これは主に、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間において、株式取得し子会社となりましたユニテックフーズ株式会社の新規連結による影響であります。

(資産)

資産につきましては、流動資産で前連結会計年度末に比べ59.3%増加し8,478百万円となりました。これは主に新規連結による受取手形及び売掛金、たな卸資産の増加等によるものであります。

また、固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ8.4%増加し10,515百万円となりました。これは主に、新規連結によるのれんの計上によるもの等であります。

(負債)

負債につきましては、流動負債で前連結会計年度末に比べ179.7%増加し5,770百万円となりました。これは主に新規連結による買掛金の増加、短期借入金の増加等によるものであります。

また、固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ14.5%増加し1,891百万円となりました。これは主に、新規連結による長期借入金の増加等によるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ0.2%増加し11,332百万円となりました。これは主に、四半期純利益の計上、新規連結による少数株主持分の計上によるもの等であります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末より16.0%減少し、59.3%となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ64百万円減少し、1,725百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(イ)営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、823百万円となりました。

これは主として、税金等調整前四半期純利益の計上等によるものであります。

(ロ)投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、1,584百万円となりました。

これは主として、子会社株式の取得による支出等によるものであります。

(ハ)財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間において財務活動の結果得られた資金は、697百万円となりました。

これは主として、短期借入金の増加等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び第4四半期連結会計期間の見通しを考慮した結果、現時点では平成20年6月20日の公表数値から変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、新たに以下の会社が連結子会社となりました。

名 称	住 所	資本金 (千円)	主要な 事業内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ユニテックフーズ株式会社	東京都中央区	300,000	機能性素材	89.3	役員の兼任…2名

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 当第3四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

2. 通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、主として先入先出法による原価法によっておりましたが、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,706,601	1,481,233
受取手形及び売掛金	1,580,587	626,815
有価証券	21,988	311,920
商品及び製品	1,324,708	389,684
仕掛品	81,568	100,782
原材料及び貯蔵品	856,858	646,961
販売用不動産	1,593,860	—
預け金	—	1,164,582
その他	1,315,501	601,634
貸倒引当金	△3,364	△500
流動資産合計	8,478,309	5,323,113
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	754,493	688,666
機械装置及び運搬具（純額）	202,240	227,538
土地	2,048,834	2,048,834
その他（純額）	57,016	54,896
有形固定資産合計	3,062,585	3,019,936
無形固定資産		
のれん	1,116,906	—
その他	82,174	68,976
無形固定資産合計	1,199,081	68,976
投資その他の資産		
投資有価証券	4,385,053	5,027,848
その他	1,892,328	1,648,419
貸倒引当金	△23,306	△67,602
投資その他の資産合計	6,254,075	6,608,665
固定資産合計	10,515,741	9,697,578
資産合計	18,994,051	15,020,692

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,045,176	89,997
短期借入金	2,389,200	922,000
未払法人税等	2,067	307,669
賞与引当金	54,478	78,963
役員賞与引当金	9,630	12,890
その他	2,270,030	651,713
流動負債合計	5,770,582	2,063,234
固定負債		
長期借入金	630,200	400,000
退職給付引当金	585,385	615,713
役員退職慰労引当金	100,517	74,100
持分法適用に伴う負債	120,411	108,322
その他	454,763	453,078
固定負債合計	1,891,277	1,651,214
負債合計	7,661,860	3,714,448
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524,460	1,524,460
資本剰余金	2,508,438	2,499,950
利益剰余金	7,664,795	7,558,261
自己株式	△561,495	△576,683
株主資本合計	11,136,198	11,005,988
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	137,192	306,327
繰延ヘッジ損益	△7,232	△6,072
評価・換算差額等合計	129,960	300,254
少数株主持分	66,032	—
純資産合計	11,332,190	11,306,243
負債純資産合計	18,994,051	15,020,692

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	12,345,299
売上原価	9,287,053
売上総利益	3,058,245
販売費及び一般管理費	2,181,643
営業利益	876,601
営業外収益	
受取利息	38,843
受取配当金	57,344
持分法による投資利益	28,511
その他	15,650
営業外収益合計	140,350
営業外費用	
支払利息	28,337
匿名組合投資損失	19,797
その他	5,165
営業外費用合計	53,300
経常利益	963,651
特別利益	
投資有価証券売却益	5,183
貸倒引当金戻入額	2,500
その他	26
特別利益合計	7,710
特別損失	
減損損失	23,401
投資有価証券評価損	366,872
その他	5,489
特別損失合計	395,763
税金等調整前四半期純利益	575,597
法人税、住民税及び事業税	204,488
法人税等調整額	△11,560
法人税等合計	192,928
少数株主利益	3,306
四半期純利益	379,362

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	575,597
減価償却費	113,787
のれん償却額	48,561
減損損失	23,401
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△39,009
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,260
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△44,835
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△30,327
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	12,910
受取利息及び受取配当金	△96,188
支払利息	28,337
持分法による投資損益 (△は益)	△28,511
投資有価証券売却損益 (△は益)	△5,183
投資有価証券評価損益 (△は益)	366,872
売上債権の増減額 (△は増加)	61,405
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,920,096
預け金の純増 (△) 減	1,164,582
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	11,837
仕入債務の増減額 (△は減少)	75,213
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	891,033
その他	36,466
小計	1,242,595
利息及び配当金の受取額	136,507
利息の支払額	△28,502
法人税等の支払額	△527,066
営業活動によるキャッシュ・フロー	823,534
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△102,693
有形固定資産の売却による収入	100
無形固定資産の取得による支出	△17,275
投資有価証券の取得による支出	△105,932
投資有価証券の売却による収入	85,283
長期貸付金の回収による収入	195,687
長期貸付けによる支出	△330,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,282,345
子会社株式の取得による支出	△27,405
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,584,583
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	985,000
長期借入れによる収入	100,000
長期借入金の返済による支出	△138,600
自己株式の取得による支出	△23,755
自己株式の売却による収入	47,430
配当金の支払額	△272,828
財務活動によるキャッシュ・フロー	697,247
現金及び現金同等物に係る換算差額	△763
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△64,563
現金及び現金同等物の期首残高	1,790,154
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,725,590

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	精糖 (千円)	機能性素材 (千円)	不動産 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	9,385,693	2,405,166	554,438	12,345,299	—	12,345,299
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	284	832	1,116	(1,116)	—
計	9,385,693	2,405,451	555,271	12,346,415	(1,116)	12,345,299
営業利益 又は営業損失(△)	704,128	△106,363	434,866	1,032,631	(156,029)	876,601

- (注) 1 事業区分の方法は、内部管理上採用している売上集計区分によっております。
2 各事業の主要な製品または業務
(1) 精糖 …………… 精製糖、液糖及び糖蜜
(2) 機能性素材 …… 食品添加物、切花活力剤、イヌリン及びペクチン等の機能性食品素材
(3) 不動産 …………… 不動産賃貸等
3 営業費用のうち、消去または全社の項目に含めた配賦不能営業費用(156,029千円)は、親会社の管理部門及び研究開発室に係る費用であります。
4 当第3四半期連結累計期間にユニテックフーズ株式会社を子会社化したことに伴い、機能性素材事業において資産の額が前連結会計年度末と比較して3,605,227千円増加しております。

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

在外子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 前第3四半期連結損益計算書

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)	
	金額(千円)	
売上高		10,079,691
売上原価		7,374,020
売上総利益		2,705,670
販売費及び一般管理費		1,745,211
営業利益		960,459
営業外収益		
受取利息及び配当金	91,760	
その他	56,363	148,124
営業外費用		
支払利息	13,117	
その他	2,287	15,404
経常利益		1,093,178
特別利益		161,420
特別損失		59,225
税金等調整前四半期純利益		1,195,374
法人税等		430,397
四半期純利益		764,976

(2) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)

	精糖 (千円)	機能性素材 (千円)	不動産 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	8,945,548	643,636	490,506	10,079,691	—	10,079,691
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	270	832	1,103	(1,103)	—
計	8,945,548	643,907	491,338	10,080,794	(1,103)	10,079,691
営業利益 又は営業損失(△)	725,947	△50,449	429,674	1,105,172	(144,712)	960,459

(注) 1 事業区分の方法は、内部管理上採用している売上集計区分によっております。

2 各事業の主要な製品または業務

(1) 精糖 …………… 精製糖、液糖及び糖蜜

(2) 機能性素材 …… 食品添加物、イヌリン及び切花活力剤

(3) 不動産 …………… 不動産賃貸等

3 営業費用のうち、消去または全社の項目に含めた配賦不能営業費用(144,712千円)は、親会社の管理部門及び研究開発室に係る費用であります。